

令和4年度 第2回八潮市外部評価委員会 議事録

開催日時	令和4年12月23日(金) 午後2時30分から午後5時05分まで	開催 場所	八潮市役所3階 第2応接室
出席者 (敬称略)	委員長：島根 秀行 委員：若尾 岳志 清水 努 竹本 美恵子 秋元 理香		
欠席者	—	傍聴 者数	0人
審議内容及び 審議結果の概要	令和4年度 第2回八潮市外部評価委員会 1. 開会、あいさつ 2. 議事 (1)外部評価 ①八潮市身体障害者福祉センターやすらぎ【障がい福祉課】 ②八潮市障がい者福祉施設わかかさ【障がい福祉課】 ③工業振興事業【商工観光課】 3. その他 4. 閉会		
提供資料	資料1: 令和4年度第2回八潮市外部評価委員会次第 資料2: 令和4年度第2回外部評価委員会年次事業評価シート 資料3: 令和4年度第2回外部評価委員会事務事業評価シート 資料4: 令和4年度第2回外部評価委員会外部評価シート 参考資料1: 八潮市身体障害者福祉センターやすらぎ参考資料 参考資料2: 八潮市障がい者福祉施設わかかさ参考資料 参考資料3: 平成28年度八潮市行政評価における外部評価報告書(抜粋) 参考資料4: 外部評価シート(年次事業評価編)における評価基準 参考資料5: 外部評価シート(事務事業評価編)における評価基準		

【議事詳細】

令和4年度 第2回八潮市外部評価委員会

1. 開会、あいさつ

2. 議事

(1) 外部評価

番号・事業名	①八潮市身体障害者福祉センターやすらぎ	担当課	障がい福祉課
事務事業評価 に対する主な 質問	<p>【委員】</p> <p>(1) 【管理経費の収支状況】の運営費について、令和2年度と比較し、1,862,383円の増額となった理由はなぜか。 →運営費は、支出の総額から人件費及び維持管理費を除いた額としているが、令和3年度の事務費のうち、修繕費や業務委託費支出が大幅に減額となったため、執行残を次年度以降の修繕等に備えるための積立金とするため、「法人本部繰入金支」が増額となったことによるものです。</p> <p>【委員】</p> <p>(2) 成果指標の延べ利用者数の「計画」の人数はどのように算出しているのか。 また、「実績」が令和2年度、3年度とも大きく下回っているが、なぜか。コロナ禍の影響だという場合、施設における新型コロナウイルス対策は十分ではなかったということか。開館日数は十分に確保されているが、実際、稼働できたのか。 →成果指標の延べ利用者数の「計画」の人数は、過去3年の実績を勘案し、設定しており、平成30年度は5,647人、令和元年度は6,552人、令和2年度は2,523人となっている。実績が令和2年度、令和3年度とも大きく下回った理由については、新型コロナの影響によるものが大きいと考えている。 令和2年度は、4月から5月にかけて発出された緊急事態宣言により、障がい者サロンや各種講座、教室の多くが中止となり、その後は、感染対策を講じて事業を再開したものの、利用者の多くが高齢者であるため、利用を控える方が多かった状況である。 施設における新型コロナウイルス感染症対策としては、八潮市の公共施設における基準に準じ、部屋の利用人数及び利用条件の制限を行い、換気や館内消毒、アクリル板の設置、施設利用団体の検温表の記入依頼などを行いながら稼働していたが、やすらぎ利用者の多くを占める高齢者にとっては、外出や人との集まりそのものに対して慎重になる方が多いのではないかと考えている。</p> <p>(3) 8月の利用者が少なくなっているようだが、それはなぜか。例年、8月は少ないのか。また、9月や2月も少なくなっているが、なぜか。 →例年、8月の暑さから通所者の体調を考慮し、講座の開催を控えている。 また、令和3年9月に予定していた書道教室は講師の都合により、10月の開催となり、2月に開催したヨガ教室は、ヨガマットを広げて使用するため、スペースの観点から他の講座と比べて募集人数を絞ったため、少なくなっている。</p> <p>(4) 利用者の年齢の偏りは、恒常的なものか。若年層が少ないことの原因は何か。 →利用者の年齢の偏りは、恒常的なものとなっている。若年層の方への、やすらぎの認知度が低いことも考えられるが、就労や他の障がい福祉サービスを利用している方も多いため、利用につながらない面もあるのではないかと考えている。</p>		

(5) 施設貸出状況の稼働率が低いように感じるが、これが平均的なのか。コロナ禍の影響があったのか。利用の障害となっていることがあるとすれば、どのようなことがあるのか。

→稼働率が低いことに関しては、コロナ禍の影響が大きいと考えている。利用者に高齢の方が多いため、利用を控えている方が多かったことによるものと考えている。

(6) 近年、Zoomウェビナーを利用した講習会も実施されているが、そのような対応はしたのか。あるいは検討したのか。

「ボッチャ」というスポーツについては初めて知ったが、フライングディスクを止めて、ボッチャに変更したとのことであるが、変更の理由は何か。

→フライングディスク教室に関しては、コロナ禍を理由に当初予定していた方に講師をお引き受けいただけなかったため中止とし、代替講座としてボッチャ教室を開催しました。

手話講座については、来所できない方のためにZOOMでのオンライン講座を実施しました。

【委員】

(7) 調査件数 26 件は、参考資料の利用実績と比べて少ないように思うが、どのくらいの期間、どなたを対象に調査をしたのか。

→令和 4 年 2 月 1 4 日～3 月 1 1 日の間、講座参加者及び施設利用者の方々を対象に実施した。

(8) 資金収支計算書の拠点区分別によると、本部への繰入支出が 4,083,800 円あり、これは、年次事業評価シートの「管理経費の収支状況」の支出に含まれていると思うが、具体的に、本部での支出のうち、何に充てられているのか。

当初予算では、1,084,000 円とされている本部への繰入支出が 4,083,800 円となった理由はなぜか。

→法人本部繰入金支出の内訳は、やすらぎ職員の給与等の人事労務管理を法人本部で行っているため、その経費相当分として、人事労務管理に係る人件費が 500,000 円、やすらぎ配置職員の退職積立金が 583,800 円、施設運営資金積立金が 3,000,000 円となっている。

当該施設は、平成元年に建設され、30 年以上が経過しており、修繕箇所が増えてきている状況となっている。そのため、修繕計画を策定しており、適切な維持管理を行っていくため、積み立てている。

(9) 「全職員に対し、事業所における職場研修を実施」とあるが、具体的に行った研修について、実施日、内容、参加人数を教えてください。

→令和 3 年度における関係法令の遵守に関する研修としては、職員間の打ち合わせを利用した情報共有をはじめ日々の業務を通じた OJT により、知識や意識を高めた。

また、職員育成に関する研修としては、施設内においてオンライン研修を受講した。

- ・令和 3 年 12 月 3 日「報告・指示の仕方・受け方」、参加者 1 名
- ・令和 3 年 12 月 8 日「アドラー心理学に学ぶコミュニケーションスキルアップ」参加者 2 名
- ・令和 3 年 12 月 9 日「イマドキの若手職員をのばすたった 3 つの方法」参加者 2 名
- ・令和 4 年 1 月 14 日「接遇マナー研修」参加者 1 名となっている。

- | | |
|--|---|
| | <p>(10) 「外部記録媒体の取扱いはない」とのことだが、パソコンで扱っているデータのバックアップはどのようにされているのか。
→バックアップ用の専用サーバーがあり、毎晩、自動でバックアップを行っている。</p> <p>(11) 「課題として、若年層の利用が少ないこと、利用者の固定化が進んでいるため、より多くの方に利用していただけるよう、広報、周知活動を進める必要がある」とあるが、これに対する所管課のご意見やご対応を教えてください。
→若年層の方々にも閲覧して頂くため、令和4年10月1日より社会福祉協議会のホームページがリニューアルされた。
以前より若年層の方々からの講座や車椅子利用等の問い合わせが増加していると伺っている。</p> |
|--|---|

番号・事業名	②八潮市障がい者福祉施設わかくさ	担当課	障がい福祉課
<p>事務事業評価 に対する主な 質問</p>	<p>【委員】</p> <p>(1) 収入の介護給付費が令和2年度と比較し、9,599,123円の増額となった理由はなぜか。 →令和2年度は利用者の退所により、令和3年度と比較し、利用者数が少ない状況であった。利用者1名につき、退所があると年間300万から450万程度の変動がある。 また、令和3年度には、利用者の障害支援区分が重い区分に変更となったため、給付費が高くなり、増額の要因となった。</p> <p>(2) 2月の利用者が少ないのはなぜか。感染者が出たということか。開館日数に影響は出たのか。例年、2月、8月は少ないのか。 →2月、8月は新型コロナウイルス感染者の発生により、施設休所や感染拡大防止による通所を控える家庭等もあり、利用者数が減少した。</p> <p>(3) 職員が18人いるが、1日当たり出勤しているのは何人ぐらいか。利用者の1日平均は15人～17人のようだが、これは適切な人数なのか。職員1人で利用者1人に対応しているように思えるが、人件費の割合が高いこともあり、職員数が過剰ということはないのか。 →1日あたり職員は12、3人の出勤となっており、障害者総合支援法の人員配置基準に基づき、利用者1.7人に対し、支援員1人の配置となっている。生活介護事業の配置基準は、主に利用者の平均障害支援区分に応じて決まり、重くなるほど手厚い人員配置が必要とされている。わかくさは、障害支援区分が平均5以上であるため、最も手厚い人員配置としている。 また、わかくさは、強度行動障がいがあるなど、重度の方を多く受け入れている。発作やパニックを起こすこともあり、常時、職員が1対1で対応しなければならない状況があり、そのような利用者の障がいの特性があるため、非常勤職員には対応が難しいため、常勤職員を手厚く配置する必要がある。非常勤職員は、週に3日～4日程度の出勤体制となっている。</p> <p>(4) 新型コロナウイルス対策として、Zoomを使うなどして、自宅での作業といった対応はしたのか。しなかったのであれば、その理由はなぜか。 →日頃、事業所においては、直接支援員の援助を受けながら軽作業を行っているが、自宅での作業は行っていない。生活介護の利用者は、重度の方が多いため、施設内と環境が異なる自宅では、家族の負担も大きくなるため難しくなる。 ZOOMは、障がいの状況から利用者自身で対応できる方がおらず、ご家族でも利用が出来ない家庭が多く、生活介護事業における利用者へのIT化は課題が多い。現在は、コロナ禍においても、サービスの継続が国から要請されており、新型コロナウイルス感染症への臨時的な対応として、感染者発生による通所休止の際や感染防止のために通所を控える利用者に対しては、ZOOMを含めたオンライン、個別電話対応での在宅支援が認められており、わかくさにおいては、個別電話対応での支援を行っている。</p>		

(5) 12月、1月は新型コロナの影響で中止や代替となった企画等はないのか。すべて実施できたと理解してよいか。中止するかどうかの基準はどのようなものか。
→12月、1月は中止とした企画はなく、すべて実施したが、常時マスクが出来ない利用者が多数いるため、他の月では、外出を伴う屋内施設（カラオケ店、ショッピングセンター、ボウリング場等）での企画は難しいため、施設内や屋外で楽しめる企画に変更するなどして実施してきた。
中止の基準は体調不良者の複数発生など、感染拡大が懸念される場合としている。

【委員】

(6) わかくさの受入可能人数、目標とする人数、稼働率、令和2年度の稼働率が低かった理由を教えてください。
→わかくさの受入可能人数は、定員の20名だが、通所者数の目標は、通所者の障がいの程度や特性を鑑み、16人としている。稼働率については、目標は、通所者数の定員20人に対する通所者数の目標値16人の割合とし、実績は、年間延べ利用者数÷（年間開所日数×定員）で算出している。
また、令和2年度の稼働率が低かった理由は、新型コロナウイルスの感染者が複数発生したため、感染拡大防止のために施設を休所したり、施設は開所していても、陽性者、濃厚接触者の発生により通所できない方、控える方が多かったことによるものである。

(7) 管理経費の収支状況について、支出・その他は参考資料によると、本部負担金となっているが、本部経費の何に充てられたのか。
また、当初予算にない本部負担金に、900万円充てられることになったのはなぜか。
→本部負担金は、法人本部で支出しているわかくさ職員に対しての保険や施設運営に関わる法人本部での事務作業、機器管理などの負担に係る経費を按分し、執行したものである。
当初予算に計上していなかった理由としては、もともと予算上では、法人本部を通じて支出している経費をわかくさの各費目に計上していたが、実態に合わせるため、決算時においては、本部負担金として処理したものである。

(8) 「法人全職員研修を実施」とあるが、具体的に、行った研修について、実施日、内容、参加人数を教えてください。
→令和4年3月31日、八潮市勤労青少年ホームゆまにてにおいて、「強度行動障害と支援のありかた」をテーマに、職員の障がい理解を深める研修を実施した。参加人数は、わかくさ全職員18人を含む40人である。

(9) 就業規則内に個人情報保護に関する条文が明記されているとのことだが、その条文の記載内容はどのような記載か。その条文だけで条例10条で定めるところの「保有個人情報の適切な管理のために必要な措置を講じ」ていると考えられるか。

また、「外部記録媒体の取扱いはない」とのことだが、パソコンのデータのバックアップはどのようにされているのか。

→就業規則第4条（秘密保持）では、「社員は会社の業務ならびに社員の身上に関し、その職務上知り得た事項については、在職中はもちろん退職後といえども公言してはならない。」と規定されている。このほか、個人情報保護に関しては、八潮市個人情報保護条例に準じて適切に管理しているほか、市との基本協定で明記している。

具体的には、個人ごとの指導台帳など個人情報を含んだファイルなどは鍵のかかる棚に保管するなどしている。日頃から、守秘義務や個人情報保護については、慎重に取り扱うよう職員に注意喚起している。

また、パソコンのデータのバックアップについては、外付けのハードディスクドライブをバックアップとして利用していることを確認しており、ハードディスクは原則、バックアップ時のみ設置、不使用時は施錠管理としている。

(10) 「外部研修に参加している」とのことだが、令和3年度は何回実施されたのか。

→令和3年度の参加研修は、1回で、テーマは「感染予防基礎研修」である。

番号・事業名	③工業振興事業	担当課	商工観光課
<p>事務事業評価 に対する主な 質問</p>	<p>【委員】</p> <p>(1) 予算面で、前回に比べると多少圧縮されているかと思われるが、どの辺りを圧縮しているのか。 →補助費の部分で増減があり、大部分が住宅改修補助に関するものとなっている。昨年度については国庫補助を活用するなどしたことにより、増減が出てきている。</p> <p>(2) 八潮ブランドの認定は、令和2年度はなかったのか。 →コロナが始まった年であり、庁内的にも会議ができないといったところがあり、また、優良技術者・技能者についても、委員に集まっていたら、会議を開くものだったため、令和2年度については、開催ができず、認定できていない状況である。</p> <p>【委員】</p> <p>(3) 「八潮かりい」が、工業振興基金を活用しているとのことだが、製造は市内で行われているのか。 →「八潮かりい」については、カレー自体は大阪の工場で作っている。そのため、工業振興基金を活用したことは疑問に思われるかと思うが、八潮市産の小松菜を100%使ったパウダーを活用しているというところが一番の肝となっており、今後小松菜パウダーをうまく活用し、例えば、市内の工場で小松菜パウダーが作れるようになったり、それを市内の事業者が使ってくれるということになれば6次化につながることになる。そのきっかけを作る商品ということで、今回は将来を見据えた工業振興基金という着眼点において、基金を使わせていただいた。</p> <p>(4) 住宅改修資金の補助というのが、資金的には多いと思うが、その他にはどのような補助事業があるのか。 →その他には、展示会等出展費用補助や新規創業資金融資利子補給、新商品開発支援事業補助金等がある。</p> <p>(5) 展示会出展費用の補助が1件から4件っていう話があったが、この活用件数は少ないのか、それとも予算どおりなのか。 →コロナ禍において、展示会自体がないという状況があり、最近ではウェブでの展示会というのもでてきている。予算としては、9件分は用意している。</p> <p>(6) その他の補助金の利用件数は、多いのか。 →住宅改修資金に関しては利用が多い状況であるが、その他の補助金は活用が少なく、基金の方も毎年1件あるかないかといった状況である。</p>		

(7) 補助事業の中で、住宅改修資金の補助がかなりの割合を占めており、その中でその他の補助事業にも目を向けてという話が前回の外部評価においてあったかと思うが、八潮市は物作りが表立っている割には補助が薄いと思う部分があり、その理由が今ある既存の補助事業も利用が少ないということで、テコ入れや、どういうニーズがあるのか、困っているところや一歩踏み出すためのサポートがこういう補助事業の一つの役割だと思うが、前回評価からこの5年に関しては、どのような状況か。

→補助事業の内容についての周知はすごく難しいというのを感じており、商工だよりが商工会を通じて市内の事業者の方に郵送で送らせていただいているものになる。その場合、この商工だよりが一番目につくものというところに着目し、昨年度から、紙面を作り直し、少しでも目に付きやすいように、とりあえず手にとって見てもらえるようにしようということから始めた。見やすく工夫はしたが、決してこれが最終形であるとは思っておらず、今年もより見やすいように変えようと考えているところがある。例えば、補助事業に関して、今何人ぐらいが使われましたなど誘導するような形にすると、活用した方が良いと思ってもらえると思うので、そういったできる範囲で、周知を図り、なるべく使っていただけるようにしたいと考えている。

また、事業者の方のニーズに関しては、商工会に話が集まると認識している。事業を展開するときには、商工会と連携しているため、商工会にも事業者の声を聞いていただき、事業者の声を集めていきたい。